安平小学校閉校活用について

2025年7月8日

安平地区まちづくり協議会

はじめに・・

2023年3月31日、116年の歴史を刻んだ安平小学校が閉校しました。

閉校したものの、安平地区の中では学校の「これから」に気持ちが寄せられています。

この「これから」というのは、「これまで」の安平地区でのあり方を大切に「この先」を紡いでいくものと考えます。2023年4月に、安平地区まちづくり協議会が発足しました。ここに集まるメンバーと共に安平地区連合自治会の思いに耳を傾け、地域住民の方々と「これから」の安平小学校の活用方法を考えさせていただき、今年3月に地域内での説明会を終え、賛同をいただくことができたところです。

本日は、役員一同より、地域の方々に伝えたことや、役員で話し合ってきた内容などをお伝えいたします。

ご説明の流れ

本日お話しすること

01 安平小学校の閉校までの経緯
（2022年12月～2023年3月まで）

02 安平小学校閉校からの1年間について
（2023年4月～2024年3月まで）

03 昨年度の協議会の閉校活用に関する動き
（2024年4月～2025年3月まで）

04 学校活用のご提案
（安平地区への説明を含めた内容）

05 まちづくり協議会の現状
（地域の説明会後から2025年度の動き）

01 安平小学校の閉校までの経緯

（2022年12月～2023年3月まで）

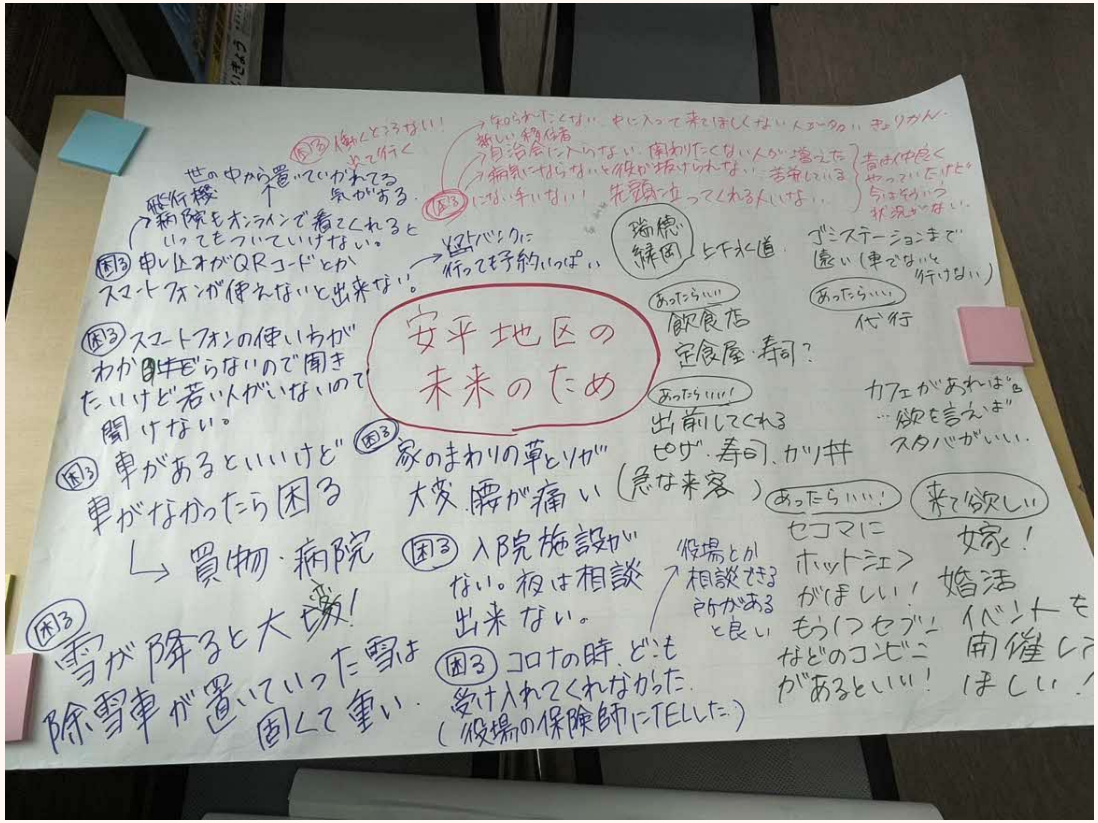
まずは、集まった皆さんで安平地区に
「あったらいいな」の意見を出し合いました
「現実的かどうか？」より
夢とアイディアを持ち寄りました

01 安平小学校の閉校までの経緯

（2022年12月～2023年3月まで）

12月　ワールドカフェ





02 安平小学校閉校からの1年間について

（2023年4月～2024年3月まで）

第１回視察の様子（登別）





のぼりべつ文化交流館　カント・レラ

のぼりべつ酪農館





02 安平小学校閉校からの1年間について

（2023年4月～2024年3月まで）

第２回視察の様子（愛知県）







東栄町　のき山学校





新城市　つくで田舎レストランすがもり

北海道では食べられない
ぼたん鍋定食

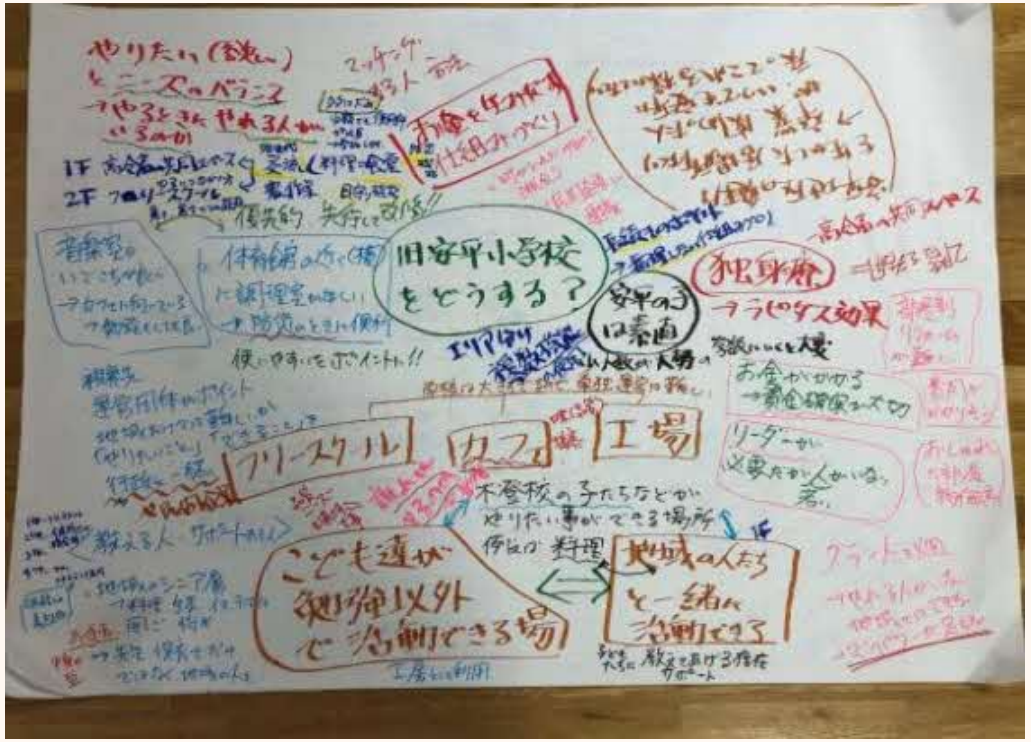
02 安平小学校閉校からの1年間について

（2023年4月～2024年3月まで）

3月　閉校活用ワークショップ開催の様子







02 安平小学校閉校からの1年間について

（2023年4月～2024年3月まで）

3月　旧安平小学校の中をみんなで見学しようツアー





02 安平小学校閉校からの1年間について

（2023年4月～2024年3月まで）

実際に校内を歩くことで

「早く何かに使いたいね」

なんて声も聞こえました

02 安平小学校閉校からの1年間について

（2023年4月～2024年3月まで）

この時期になると、

「資金の面では公設民営がいいのでは」

「どこかの企業に買い取ってもらったらいいなぁ」

「意見は出すけれど、実際の運営になったら

責任を持つことが難しい」

などといった**現実的**な意見も出されました。

03 2024年度の協議会の閉校活用に関する動き

（2024年4月～2025年3月まで）

4月
協議会内で閉校活用
プロジェクトチーム発足

5月
協議会内で学校活用の提案

7月
ゆめパのじかん上映会
（視察計画を検討）

10月
視察計画の立案

11月
視察計画場所2箇所視察
・川崎市子ども夢パーク
・52間の縁側のいしいさん家

12月
協議会内で閉校活用の
方向性のすり合わせ

1月
「つくーる新聞（会報紙）」
作成・発行

3月
安平地区にて
閉校活用説明会開催

03 今年度の協議会の閉校活用に関する動き

（2024年4月～2025年1月まで）

11月　川崎市子ども夢パーク・５２間の縁側を視察



川崎市　子ども夢パーク







八千代市
５２間の縁側いしいさん家





方向性

04学校活用のご提案

04 学校活用のご提案

（安平地区への説明を含めた内容）

❶ 避難所機能を持った場所

❷ 多世代交流の場所

【方向性】 安平小学校跡地利用において、避難所機能を持つことを根底に多世代交流を行います



②多世代交流機能

フリースクール・コミュニティーカフェ等

避難所として使うための「日常づかい」

子どもから高齢者、障がいがある人誰しもの居場所

安心して暮らせる教育（共育）の場



①避難所機能

体育館・公民館を一体的に捉えた避難所

いつ、どこで、どのような災害が起きるか
分からないからこそ、機能させておきたい

❶ 避難所機能を持った場所

東日本大震災以降に立ち上がった自主防災組織

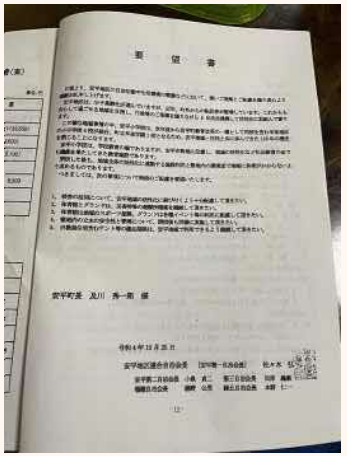
2018年9月6日に発生した、胆振東部地震での避難所開設された
自治会の動き

2022年10月25日に提出された、安平地区連合自治会の要望書

いつ・どこで・どのような災害が起こるかわからない事態に備えた、

地域の方々が安心して過ごせる場所へ

安平連合自治会　要望書より抜粋



安平小学校は、学校教育の場でありますが、
安平市街地に位置し、地域の活性化など社会教育の
面でも機能を果たしてきた教育施設であります。

閉校した後も、地域全体の活性化に連動する施設利用と敷地内の
環境面で地域に負担がかからないよう求めるものであります。（中略）

１．校舎の活用について、安平地域の活性化に結びつくよう十分
　　配慮して頂きたい。
２．体育館とグランドは、災害時等の**避難所機能**を継続して頂きたい。
　（中略）

❷ 多世代交流の場所

安平地区の現状を踏まえ、この先の在り方を次のように考えました。

①不登校の子どもたちがいる

②安平地区の高齢化は安平町の中で進んでいる

③新規居住者（子育て世帯が多い）が増えてきている

④自治会の高齢化も否めず、緩やかに担い手が必要になりそう

「地域の方々誰しもが集える場所」を創造したい

地域の方々誰しもが集える場所

社会教育（生涯学習）の機能を持たせた場所

・フリースクール機能を持った子どもたちの居場所

・年齢・性別・生まれた場所など関係なく、
色々な人たちが集い、対話ができる場所

安平町の子どもたちの現状

2023年4月　早来学園スタート

子どもの変化（子どもの声）

「学校」という場所に馴染めない子ども

「学校」という場所に疑問を持っている子ども

「居場所」を求めている・探している子ども

「個別」の関わりを望んでいる子ども

▽

子どもの多様化に合わせた地域の多様化の必要性

その子（個）にあった学びの場の必要性→フリースクール

【既存にある学校の「補完的」機能を持った学校（循環）】

シニア世代の不安

「タクシーがない」
「病院が欲しい」
「雪かきが大変」
「一人になった時に住む場所の不安」
「経済的な不安」
「買い物に行きたい」
「何かあったときに逃げる場所」

健康・生活
災害への不安

肉体・精神・社会への不安

学校という社会の中で困難を覚える子ども

少子高齢化社会の中、未来に不安を抱える大人

子どももおとなも幸せな社会を考える

◯私たち誰しもが集まりたい場所って…

いろんな人がいて

気軽に集まることができる

気軽に相談ができる

気軽に話せる場所がある

気軽に働ける場所がある

気軽に過ごせる場所がある

「あの場所に行ったら会える人がいる・生きがいを感じる学び合いがある」

子どもからおとなまで、

年齢・生き方・価値観などの違いは一緒に過ごすことで育まれる

「ごちゃまぜ」で「集い」、「学び合う」「つくり生み出す」場所

▽

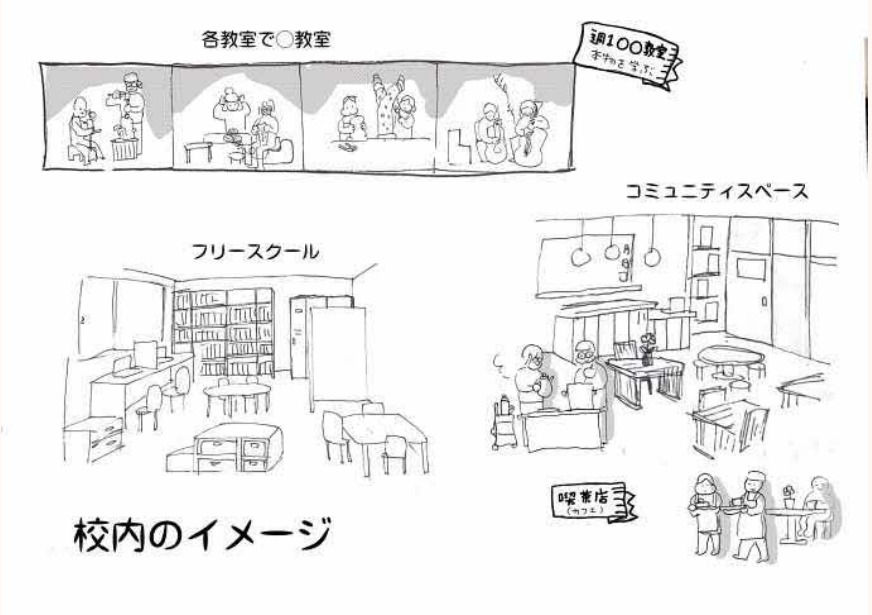
寄り合いの場・フリースクール・多世代交流の場

「社会教育（生涯学習）の場」

▽

安平小学校の跡地利用をこのような形で使うことはいかがでしょうか

（イメージ図）


各教室で○教室
週100教室
コミュニティスペース
フリースクール
喫茶店
校内のイメージ


飼育の小屋
きがえしつ
花園
プレイパーク
屋外のイメージ

安平町の町政執行方針より（抜粋）

・子育て・教育
「コミュニティ・スクール」等
→「学校のこと」だけに留まらない「地域づくり」

安平町の教育行政執行方針より（抜粋）

・子どもにやさしいまちづくり
→世代に関係なく、生涯にわたり学ぶ意欲と健康な体を育み、豊かな人が育つまち

・社会に開かれた教育課程、福祉分野と連携した学校教育
→地域を題材にした探究的な学び
→個別に配慮が必要な児童生徒や家庭の養育支援

▽

安平町それぞれの執行方針に合致した、協議会からのご提案として

旧安平小学校を安平町の「第３の学校」に

１）早来学園（早来地区）
はやきた子ども園→早来学園と連続性のある学びの場

２）追分小学校・中学校（追分地区）
追分の特色を持った教育の場

３）社会教育学校（安平地区）
地域のあらゆる世代が学び合う「生涯学習の拠点」
学校に行っていない子どもたちが安心して学べる場
義務教育を終えた若者が地域で引き続き学び続けられる場
高齢者が集い、生涯にわたって学び、つながる場

↓

これらの機能を包括する、フリースクール的機能を備えた
生涯学習の拠点として位置付けたい

説明会を終えて・・

05 まちづくり協議会の現状

（地域の説明会後から2025年度の動き）

i. 協議会役員で話し合った教室の使い方

模型でご説明します

ii. 説明会後の閉校活用の動き方

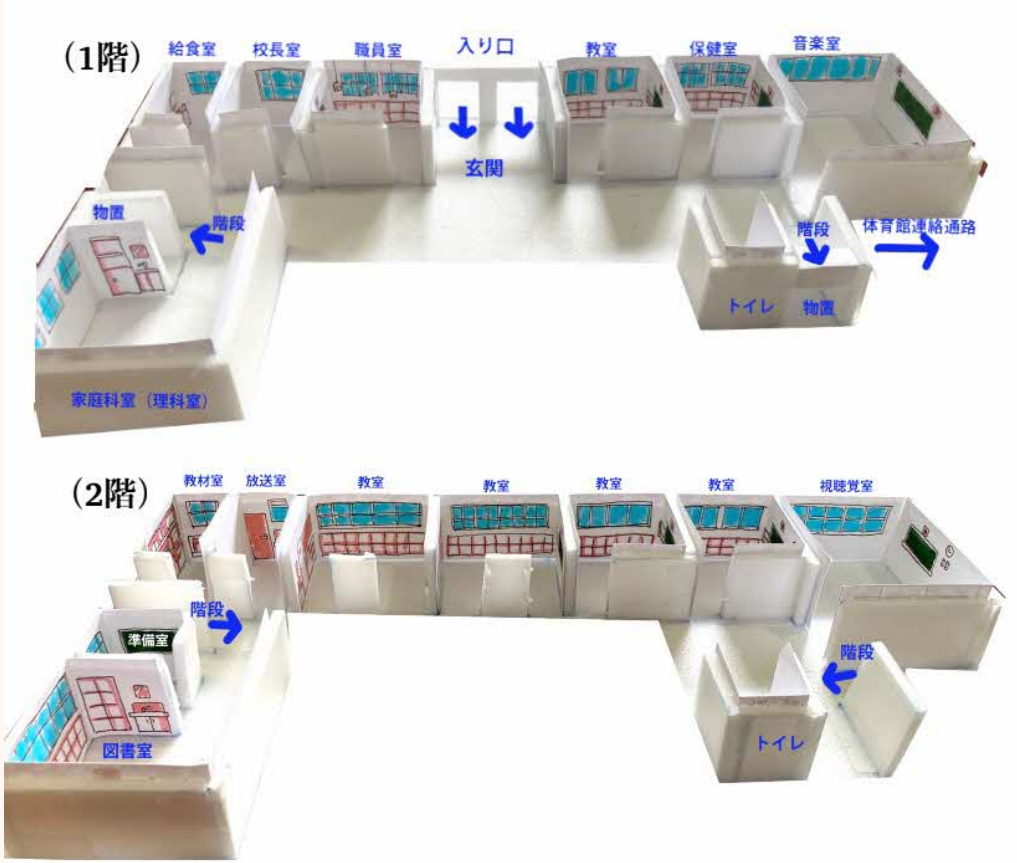
2025年度、旧小学校を活用してできること

i. 協議会役員で話し合った教室の使い方

安平地区での説明会を終えた後、役員会内で学校の活用について話し合い、
次のようにまとめてみました

- コミュニティカフェ
- フリースクール（児童福祉と共同・協働）
- 地域の方々の学びの場
- 福祉サービス（介護保険事業まで見据えて）

教室の使い方



１Ｆ
地域交流や高齢者にやさしい設備を

- 玄関で駄菓子屋
- くつろげるテラスを増築
- 教室はキッチンのある
  カフェスペースで
- 理科室はお風呂

２Ｆ
子どもの居場所や宿泊・研修機能を

- 職人アトリエなど、誰でも
  学べる場所
- 視聴覚室を宿泊・研修及び
  映画上映などができる場所
- 図書室をフリースペースに

（その他）
トイレは車椅子で使用できるようにリニューアル、エレベーター設置、更衣室、管理人室・相談室…

ii. 説明会後の閉校活用の動き方

（これまでの子どもたちの様子）

●日常の子どもたちの姿（体育館で一緒に過ごす日々）

まちづくり協議会「子どもの居場所づくり事業」の子ども

ポラーナ「放課後等デイサービス」を利用する子ども



学校に行っていない子ども
放課後に集まる子ども
↓
一緒に笑い、汗をかき、あそぶ

ii. 説明会後の閉校活用の動き方
（これまでの地域の方々との様子）

●第１回クリーンアップ大作戦（お掃除プロジェクト）

懐かしい校舎の中に入り、教室を掃除をして、
これからの学校の在り方を考える会



地域の方々が集まる
地域の子どもたちが集まる
↓
みんなで「こんな場所になったらいいね」
を語り合う



継ぎ接ぎプロジェクトのキックオフ



プレーパーク
（子どもの遊び場）キックオフ

Q.これから学校を使っていくならどうしたい？
（地域の子どもの声・大人の声）

（子ども）
・いつ行ってもいい、静かに過ごせる場所が欲しい

・鬼ごっこ・かくれんぼをしたい・みんなで遊びたい（学校の中で遊びたい）

・キャンプしたい・焚き火したい・合宿したい（懐かしい学校で過ごしたい）

・前の安平小学校みたいな感じがいい

（大人）
・不登校の人たちが来れる寄宿生のフリースクールがあったらいい（外国の人も）

・いつ起きるか分からない災害の避難所であってほしい

・大きなイベントとかでなくていいから、日常からみんなで集まれる場所がいい

・音楽室などを使ってバンドなどの演奏をしたい

●2025年度の学校活用の動き

～多世代で、地域の方々に参加してもらえる開けた活動を～



- **安平小学校クリーンアップ大作戦（お掃除イベント）**
  - 安平小学校に通っていた子どもたちと
    これからの安平小学校の使い方について話し合う場。
  - 新しく移住してきた方々と
    これからの安平小学校の使い方について語り合う場。



- **プレーパーク・アビラ（安平地区の遊び場活動）**
  平日の午後、これまで拠点が体育館としていたところ、
  玄関前及び校庭にエリアを広げた遊び場づくり。

- **継ぎ接ぎプロジェクト（安平地区のつながり活動）**
  旧安平小学校の窓に、地域の皆さんでカーテンづくり。

2025年度、
今までの安平地区の動きを
これからの活動として紡いでいきたい

end

今回ご説明させていただいたお話は、

安平連合自治会の意向と、
まちづくり協議会で検討してきたアイディアを
ジョイントさせて、賛同をいただきながら
地域と一体になって進めさせていただきたい内容です。

どうか
旧安平小学校という場所で
実現させてください